

平成29年度
自然博物館の運営状況に対する評価書

和歌山県立自然博物館

和歌山県立自然博物館の使命

和歌山を含む紀伊半島は、豊かで貴重な自然が残されている地域です。この豊かさは、黒潮と豊富な降水量によって支えられています。

黒潮の流れは多くの熱帯・亜熱帯性の海洋生物を育むだけでなく、陸上生物の分布にも大きな影響を与えています。大量の雨は急峻な谷を刻み、地形的な複雑さは陸上生物の豊かな多様性を生み出してきました。

さらに、恐竜化石や海生は虫類モササウルス化石の発見によって、和歌山が古生物学的にも大変貴重な地域であることも明らかになりました。

和歌山県立自然博物館はこうした貴重な和歌山の自然を紹介する施設として昭和57年に設立されました。自然史系博物館としての基本的な役割を様々な方法で積極的に展開するとともに、多様な水生生物の生体展示によって豊かな黒潮の海を実感していただくことを目指してきました。また、自然環境及び生物多様性の保護・保全に対する県民意識の啓発にも力を注ぐとともに、身近な情報を多様な方法で発信し、県民に愛され地域や学校教育に貢献できる博物館を目指します。

1 和歌山県の自然に関する資料を収集します。

和歌山県の自然を取り巻く状況は、地球温暖化や開発といった環境変化がもたらす影響や、外来生物の侵入といった要因で少しずつ変化しています。その時々によどのような生物が分布し、生息状況がどうであったかを後世に残すためにも、水族・陸上動物・昆虫・植物・地学等、自然に関する分野の資料を精力的に収集します。また、比較対象とするために県外の資料も収集します。そして、収集した資料は研究等に利用するほか、デジタル化を進めホームページや様々な媒体で一般に公開するなど、自然に関する県内の中核施設としての役割を担います。

2 和歌山県の自然に関する情報や資料を調査・研究します。

大学や試験研究機関、学校関係者、民間の研究者や同好会などとのネットワークを広げ、自然に関する情報や資料を積極的に調査・研究し、その成果を自然博物館館報や自然博物館だよりのほか、様々な媒体により、全国に情報を発信します。

3 展示の充実を図ります。

常設展は水族を中心にした生体展示と植物・陸上動物・昆虫・地学展示を中心にした標本展示を行い、夏休み期間中を利用した特別展や小企画展を随時開催しながら、展示更新を多くするなど来館者に新鮮さを感じてもらえるように工夫します。

また、来館者が気軽に質問できるコーナーの開設や、展示物を楽しく観覧しながら学べる企画の開催など、来館者の多様なニーズに応えられるよう配慮します。

4 和歌山の自然の魅力やすばらしさを伝えます。

和歌山の自然のすばらしさや魅力を知ってもらうために、講演会や体験学習など、多様な行事を企画して開催します。また、当館ホームページ・自然博物館だよりなど、様々な媒体により、当館の活動を広報します。

学校等の団体に対しては、様々な教育プログラムを用意して、自然に親しむきっかけ作りに努めます。

その他、職場体験学習・インターンシップ・出前授業など多様な形態の学習支援を行います。

また、友の会や関係団体と連携しながら、ネットワークを広げ自然博物館を活用した生涯学習の機会の提供に努めます。

5 安全と快適さを重視した博物館運営を行います。

すべての利用者が安全で快適に利用できるよう、施設・設備の維持管理を行うとともに、地震や津波など各種災害時の危機管理に対する職員の意識向上に努めます。

また、施設の美観保持と衛生管理に努めます。

全体評価

<p>自然博物館長による評価</p>	<p>当館は施設面積が約2,700㎡と都道府県立の自然史系博物館としては全国一規模が小さい。しかも開館以来35年を経て大規模な改修等は行われて居らず、施設・設備の老朽化も著しい。そうした中で一昨年度の12万人には僅かに届かなかったが、11万9千人を超える入館者を迎えることができたことは、日常的な水生生物の維持・管理および展示はもちろんのこと、日頃の教育普及の成果として評価したい。資料収集・管理に関わっては、新たに確保された収蔵スペースの保存環境整備が進められたことは評価できる。今後とも予算の獲得を得て保存環境整備に努められたい。資料収集は分野による多寡はあるもののおおむね順調に進められている。調査・研究面では、新たに大学および他の研究機関との共同研究がすすめられたこと、外部資金の獲得に向けた努力が認められたことは評価したい。展示では改装された玄関ホールを使用した展示や小企画展が年間を通して行われた。夏期特別展も「興味津々！深海魚」と題して、深海魚の生物学的側面だけでなく文化史的要素も取り入れた展示となり好評であった。教育普及に関わっては、学校等の団体利用の実績が昨年度をかなり下回った。この原因は不明であるが、子供の減少やそれに伴う学校の統廃合等が影響している可能性がある。一方で地域、学校との連携や県内博物館施設との連携は概ね例年通り進められた。メディアへの広報・情報発信は例年通りの実績を示したが、ホームページやフェイスブックの更新回数は昨年度を下回り、閲覧回数も減少した。こうしたツールを通しての情報発信は今後ますます重要となることを考えると、努力が望まれる。他の関連組織や団体との協力事業については、生物多様性と歌山戦略の実行やRDBの改定等に関わって、活発に取り組みがなされていると評価できる。組織・運営では災害対応訓練、情報・データ管理、人権研修等県の定めた方針およびマニュアルに沿って、円滑に実施されている。施設・設備については、予算の獲得に努力し直流電源装置、濾過水槽配管、取水ポンプ室、きらめく海水槽冷暖房設備等の修繕がなされたことは評価したい。</p>
<p>評価部会所見</p>	<p>資料収集・管理、調査・研究はよく行われており、その成果は展示・教育にもよく反映されている。限られた財源ながらも、定期的な展示会の他、常設展の更新や入口スペースにおける展示など積極的に試みられており、高く評価できる。様々なコンテンツの教育プログラムの開発と実行、また多様なメディアを用いて広報・情報発信もよく行われている。また、将来構想計画に基づいた適切な人材配置も着実に実行されている。特に設備の改修の予算を特別に獲得され、これを実施した点は高く評価したい。また、科研費の応募資格を取得できる見込みとなったことは評価でき、これにより、研究活動が活発化することが期待できる。その一方、現在の老朽化した手狭な施設では、自然博物館の活動をさらに発展的に推進することは難しい。スペース不足のため資料の保存、保管に支障がでており、スペースの確保が急務である。そして、適切に管理された余裕ある収蔵空間を有し、現代的な展示設備と必要な実験施設を備えた新館獲得へ向けて積極的なアピールを継続して頂きたい。多様な要請のもと、学芸員の負担が大きすぎることも懸念される。適切なエフォート配分により、学会参加、研修、社会貢献などの時間が確保できるように配慮する必要がある。</p>

1. 資料収集・管理

<p>自然博物館長による所見</p>	<p>分野によって多寡はあるが、職員による資料収集・調査は概ね順調に進められたと評価したい。新たに確保された収蔵施設の環境整備も進みつつあるが、さらなる予算獲得の努力が望まれる。図書資料等の分散配架は、現状ではやむを得ない面もあるが今後の課題である。標本・画像資料等の貸し出しについては、点数だけでなく活用実績の把握が求められる。</p>
<p>評価部会所見</p>	<p>各分野の資料収集を計画的に進め、資料の受け入れ数や所蔵点数が実績として示されているが、この中で登録がなされた資料が何点ほどあったかという点での実績値報告が望まれる。また、個人コレクションを積極的に受け入れられるような余裕ある収蔵空間の確保が望まれる。図書の充実や管理については県立図書館との連携は如何であろうか。</p>

A 適正な方法で資料収集が行われたか

<p>平成29年度目標</p>	<p>法令、条例に基づき適正な方法で、精力的に収集活動を行う</p>
<p>実績</p>	<p>適正な方法で各分野の学芸員が資料収集を行った。</p>
<p>自己評価・課題・改善案</p>	<p>引き続き適正な方法で資料収集を積極的に行う。</p>

B. 寄贈・寄託数は何件・何点か

平成29年度目標	基本的には受け入れる
実績	29年度は植物16件571点、昆虫23件4,193点、陸上脊索動物12件13点、魚類12件27点、無脊椎動物10件517点、地学 9件201点を受贈した。
自己評価・課題・改善案	引き続き可能な限り、寄贈・寄託を受ける。

C. 学芸員による収集は何件・何点か

平成29年度目標	各学芸員が積極的に資料収集を行う
実績	29年度は植物30点、菌類・粘菌類6件250点、昆虫 71件351点、陸上脊索動物1件1点、魚類36件369点、無脊椎動物11件108点、地学 7件42点を収集した。
自己評価・課題・改善案	引き続き可能な限り収集に努める。

②博物館資料

A. 資料の保存環境は適切か

平成29年度目標	適正な環境保持に努める
実績	収蔵資料が増加する中、収蔵スペースは飽和状態にあるため、保存環境が良好でない場所への保管も余儀なくされている。
自己評価・課題・改善案	和歌山大学教育学部棟改修に伴う資料の受け入れ等のため新しい収蔵スペースの確保が必要になってきている。

B. 資料の調査を行ったか

平成29年度目標	専門分野ごとに精力的に取り組む
実績	地学、植物、菌類・粘菌類、昆虫、陸上動物、魚類、海産無脊椎動物の各学芸員は担当する分野の資料の調査を精力的に行った。
自己評価・課題・改善案	引き続き各専門分野の調査を精力的に行う。

C. 収蔵点数は何点か

平成29年度目標	前年度の上積みを図る。植物61,000点、昆虫67,000点、貝類120,000点、陸上脊索動物510点、魚類5,200点、無脊椎動物110,000点、地学4,400点
実績	29年度は植物601点、菌類・粘菌類250点、昆虫4,544点、陸上脊索動物14点、魚類396点、無脊椎動物625点、地学16件243点を収蔵した。
自己評価・課題・改善案	収蔵スペースが満杯状態にあり、大幅な資料の受入は難しくなっているが、新しい収蔵スペースを確保して、資料の充実を目指す。

D. 資料の管理（台帳、データ）は適切か

平成29年度目標	資料台帳、データベースの作成を引き続き行うとともに管理を徹底する
実績	各分野とも資料台帳及びデータベースの両面で資料管理を適切に行った。
自己評価・課題・改善案	今後も資料の管理を適切に行うとともに、利用者がわかりやすい資料の配架に努める。

③資料の活用

A. 他機関へ資料を貸出ししているか

平成29年度目標	依頼に応じて手続きを経て貸出しを行う
実績	哺乳類画像1件5点、鳥類画像1件1点、爬虫類画像1件2点、両生類画像1件1点、魚類4件19点（うち画像3件17点）、カニ類2件14点、植物画像1件9点、地学11件80点（うち画像5件12点）、合計22件131点 貸出先 大学1件、博物館等7件、出版社等6件、その他1件（同一貸出先へ複数分野の貸出有り）
自己評価・課題・改善案	館内の承認手続きに従って資料の貸出を行った。今後も適正な手続きを経て貸出を行う。

B. 図書を収集し、研究や閲覧に供しているか

平成29年度目標	予算の範囲内で収集し、研究・閲覧に供する
実績	68万2千円の予算で105点の図書を購入した。また、他施設との交換図書及び受贈図書2,521点を登録し、研究用と閲覧用に供した。
自己評価・課題・改善案	限られた予算の中で大量の図書を購入することは困難であるが、交換図書や受贈図書を広く受け入れ、図書の充実を図る。

C. 資料のデータを公開しているか

平成29年度目標	公開可能なものから順次実施する
実績	GBIF (Global Biodiversity Information Facility) にシダ植物、カニ類を含む無脊椎動物の11,058点を公開中である。平成29年度は新しい公開は行わなかった。
自己評価・課題・改善案	研究が進み公開が可能になれば、絶滅危惧種等の産地情報については配慮し公開していく。

2. 調査・研究

自然博物館長による所見	調査・研究予算の現状や、研究設備の不足及び老朽化を考慮すると、分野による偏りは認められるものの、協議会資料（14～15頁）にも記されているように、おおむね良く行われていると評価できる。他大学や研究機関との共同研究が進められていることも評価したい。
評価部会所見	それぞれの学芸員が持つ研究課題は分野別であるため、館内で共同作業できない傾向にあるが、個人研究課題とは別に館の共通課題を設定し、これに外部資金を獲得するための方策の検討も期待したい。科研費の応募資格を取得できる見込みとなったことは評価できる。組織として、学芸員が主体的に研究し、学術論文や学会発表などの学術成果の公表を積極的に行える体制づくりが必要である。学芸員の研究費と研究時間を恒常的にどのように確保していくかは課題となる。一方で、研究論文の発表実績が多くはない分野が認められる。また、全体的にレフェリー制度のある学術雑誌に投稿し受理された論文数が不足している。他機関からの依頼だけではなく、自らが立案した研究目的に沿った成果を挙げて公表して頂きたい。

①調査

A. 使命に基づいた調査を行っているか

平成29年度目標	「和歌山県立自然博物館設置及び管理条例」及び「和歌山県立自然博物館の使命」に基づき調査を行う
実績	「和歌山県立自然博物館設置及び管理条例」及び「和歌山県立自然博物館の使命」に基づいて収集調査を行った。
自己評価・課題・改善案	引き続き法令、管理条例、自然博物館の使命に基づいた調査を行う。

B. 外部機関・団体等と共同した研究を行っているか

平成29年度目標	研究テーマの必要性に応じて共同研究を行う
実績	和歌山植物研究会と共同し和歌山県産野生植物の分布調査を行った。 和歌山県水産試験場、中央大学、水産研究・教育機構等17機関が共同する「河川及び海域での鰻来遊・生息調査事業」に参加してウナギの生態調査・研究を行った。 国際常民文化研究機構との共同で「戦前の渋沢水産史研究室の活動に関する調査研究」へ参加した。 ウプサラ大学他海外の研究者と共同し細胞性粘菌の属レベルの分類学的整理を行った。 立命館大学や筑波大学の研究者と共同で細胞性粘菌有用株DM7の分類学的再検討を行った。 東北大学や岡山大学の研究者と共同し変形菌の腐朽菌からの栄養摂取に関する研究を行った。 京都大学と共同しヨシノボリ属魚類の分類再検討についての研究をおこなった。 岐阜大学、魚津水族館、宮内庁と共同してハゼ科魚類の分類と生態について研究調査を行った。 すさみ町立エビとカニの水族館との共同調査（潮間帯生物）をおこなった。 国立科学博物館と共同し白浜町から産出した星形生痕（ヒトゲ類の生息跡）化石について研究を行った。
自己評価・課題・改善案	必要性に応じて外部機関・団体等と共同研究を行う。

② 研究成果の活用

A. 展示・教育活動等に成果が反映されているか

平成29年度目標	得られた研究成果は速やかに展示・教育活動に反映させる
実績	採集・調査により得られた生物や資料について、研究を行い、展示や論文・普及誌に掲載した。
自己評価・課題・改善案	引き続き研究の成果は、展示や教育活動に反映させる。

B. 学術的公表（館研究紀要、報告書、学会誌等）がなされているか

平成29年度目標	研究成果については学術的公表に努めるとともに自然博物館館報や自然博物館だよりで紹介する
----------	---

実績	自然博物館報第35号及び自然博物館だより第35巻2号から4号と第36巻1号を発刊するとともに、国際誌Soil Biology and Biochemistry、Fungal Ecology、Protist、Plankton and Benthos Research（日本ベントス学会）、Zootaxa、日本植物分類学会誌、日本環境動物昆虫学会誌、昆虫と自然、南紀生物にて公表した。 第9回国際変形菌分類学・生態学会議、日本昆虫学会、南紀生物同好会にて口頭発表を行った。
自己評価・課題・改善案	引き続き研究成果の公表を自然博物館報及び自然博物館だより、学会誌などで積極的に行う。

3. 展示

自然博物館長による所見	小企画展示や改装された玄関ホールを使用した展示が年間を通して行われた。第二展示室においても、モササウルス産状レプリカの常設展示を実現したほか、新たに変形菌の展示が始められた。総論でも述べたように、夏期特別展「興味津々！深海魚」では、深海魚の生物学的側面だけでなく、文化史的な面も取り上げた展示となり、期間中32,878名の入館者を得るとともに好評であった。一方、職員配置の見直し等もあって、水生生物の展示水槽は淡水生物の展示が増加し、やや地味な印象を与えるものとなった。また、昨年も指摘したが、大水槽の維持に関しては課題も多い。早急に改善できる状況は望めないだけに、長期的な視点に立って対策を進めてゆく必要がある。
評価部会所見	限られた予算・人員の中でリピーター対策にも有効な常設展の展示替えもよく工夫して行われている。特別展の集客も駐車場や会場の広さに限界がある中、努力されている。出前展示にも力を入れている点もよい。今後は小規模でも良いので、展示の更新を継続していくことが必須であろう。

①常設展

A. 長期的な視野に立った展示替えの計画があるか

平成29年度目標	新館構想を見据えた展示替えを計画する
実績	第2展示室において、小企画展を6回、玄関ホールにおいて8回開催した。
自己評価・課題・改善案	当館の構造上、大幅な展示替えは困難であるが、小企画展等でタイムリーな話題等に対応した展示を行った。

B. 計画的な維持・管理が行われているか

平成29年度目標	予算の範囲で適切に対応する
実績	屋内だけでなく屋外の植栽についても維持管理を行った。適切な管理により四季を通じて展示植物を充実させることができた。
自己評価・課題・改善案	今後も予算の範囲内で必要に応じて維持・管理を行う。

C. 日常的な保守・管理が行われているか

平成29年度目標	日常的に展示資料についての状態確認を行う
実績	休館日を除く毎朝、開館前の始業点検を行った。
自己評価・課題・改善案	引き続き日常的な保守・管理を適正に行う。

② 特別展・企画展

A. 展示のコンセプトは妥当か

平成29年度目標	自然博物館協議会評価部会で承認を得る
----------	--------------------

実績	特別展の展示コンセプトについては自然博物館協議会評価部会にて承認を得て開催した。
自己評価・課題・改善案	展示内容が適切か自然博物館評価部会で承認を受けて作業を進めることができた。

B. 展示の構成・展示手法はどうか

平成29年度目標	年少者の視点に立った平易な構成・手法に努める
実績	子供から大人まで幅広い年齢層が楽しめるよう触察展示や関連グッズ作製等を行った。
自己評価・課題・改善案	引き続き年少者も楽しめる平易な展示内容・手法に努める。

C. 入館者は展示に満足しているか

平成29年度目標	アンケートにより把握する
実績	アンケートを実施し、82%以上が展示内容に満足との結果であった。
自己評価・課題・改善案	引き続きアンケートを実施して入館者の意向を調査するとともに指摘された課題について改善に努める。

③ 出前展示

A. 何回企画を実施したか

平成29年度目標	年度内に5回以上実施する
実績	移動ミニ水族館を県内小中学校及び支援学校に対して合計8回（のべ10,982人）開催した。
自己評価・課題・改善案	29年度目標を上回る回数を実施することができた。実施先の反応はいずれも好評であった。

4. 教育普及

自然博物館長による所見	教育普及事業については、多様な取り組みと内容で実施されており十分な成果を上げていると評価できる。すっかり定着した感のある「移動ミニ水族館」であるが、今年度は8回の開催で10,982名の児童・生徒を迎えることができずれの開催地でも大変好評を持って迎えられた。また、西牟婁郡でも開催し、課題とされている紀南地域への貢献として、評価したい。一方で、学校等の団体利用は団体数、参加者ともに大きく減少した。この理由は明らかではないが、児童数の減少やそれに伴う学校の統廃合が影響している可能性がある。
評価部会所見	教育普及については概ね計画通りの実績をあげている。地域、学校、県内博物館との連携も着実に行われている。団体受入と出前授業、移動ミニ水族館は、各々延べ1万人以上に対応したほか、多様な館行事、「館だより」の発行、友の会の活動などを通じ、さらに紀南地域への教育普及を継続して頂きたい。県内のアマチュアグループともしっかりと緊密に交流し、教育普及に努め、博物館活動をサポートするボランティアを依頼できる人材の裾野を広げる努力についても考慮して頂きたい。

① 学校・団体の利用者への解説

A. 学校、団体の利用数・利用人数

平成29年度目標	180団体10,000人
実績	188団体10,681人に対して解説を行った。

自己評価・課題・改善案	目標を上回る実績を達成することができた。引き続き同様の対応を行いたい。
-------------	-------------------------------------

B. 利用者が満足しているか

平成29年度目標	アンケートを実施して把握する
実績	裏方見学の利用団体（84団体）に対してアンケート調査を行った結果、90%はリピーター団体で、96%が満足との回答を得た。特に、大水槽、裏方見学、タッチングプールは好評であった。
自己評価・課題・改善案	学校等の団体利用者には好評であったが、新規の来館団体の開拓についても努力したい。

②講演会

A. 講演会の回数

平成29年度目標	2回（昨年度は1回）
実績	講演会「文系の地学」と「虫こぶから学ぶ昆虫と植物の関係」を開催した。
自己評価・課題・改善案	毎年行っている「文化の日」の講演会に加えて、湯川淳一先生の協力を得て2回目の講演会を開催することができた。

B. 講演会の参加者数

平成29年度目標	募集定員の60%以上
実績	参加者68名、56%であった。
自己評価・課題・改善案	目標には届かなかったが、講演終了後には熱心な質問が相次いだ。広報、演題の設定など今後の課題にしたい。

C. 参加者が満足しているか

平成29年度目標	アンケート及び参加者の感想を聞き把握する
実績	アンケートは実施できなかったが、参加者からの聞き取りを行ったところ、いずれも好評であった。
自己評価・課題・改善案	引き続き講演会終了後、アンケートを取るとともに参加者から聞き取りを行い、次回への改善に努めたい。

③バックヤードツアー等の体験学習

A. 体験学習等の実施回数

平成29年度目標	25回
実績	裏方探検ツアーなど合計26回開催した。
自己評価・課題・改善案	目標を下回らない体験学習を開催すると共に内容の充実をはかって行きたい。

B. 体験学習等の参加者数

平成29年度目標	募集定員の80%以上
実績	募集定員の80%を下回った行事は、26行事中5行事であった。

自己評価・課題・改善案	行事開催日決定後に教育現場の都合が変わったり、当日の天候及び体調不良等でキャンセルするケースも多い。今後も状況把握に努めつつ目標の達成を目指す。
-------------	--

C. 参加者が満足しているか

平成29年度目標	アンケート及び参加者の感想を聞き把握する
実績	アンケート調査と口頭での聞き取りを行った結果、参加者の感想はほぼ好評であった。また、行事後に友の会に入会があったり、再び来館いただいた参加者も多くいた。
自己評価・課題・改善案	行事開催後にアンケート及び口頭で感想を聞き、満足度を把握する。

④県民や地域との連携

A. ボランティア活動を受け入れているか

平成29年度目標	要望があれば受け入れる
実績	植物標本整理のためのボランティアを週1回のペースで3名。他に行事ボランティアを数回受け入れた。和歌山大学との協定に基づくボランティアは希望者がなかったため実施しなかった。
自己評価・課題・改善案	植物標本整理のためのボランティアは館の業務に大きな手助けとなっていて、引き続き受入を継続するとともに、他分野のボランティアも要望があれば引き受ける。

B. 友の会等の支援組織の活動に協力しているか

平成29年度目標	友の会等の支援組織の活動に協力する
実績	自然博物館友の会が開催する行事（19回、参加者529名）や出版物に対して支援・協力を行った。
自己評価・課題・改善案	自然博物館友の会を中心にして、今後も支援組織に協力を続ける。

C. 地域、学校等と連携した事業を行っているか

平成29年度目標	連携した事業を行う
実績	当館独自の出前教室においては20回、892名に対して観察会の指導や講演を行った。 県立高校スーパーサイエンスハイスクール指導（向陽高校、日高高校、海南高校）。 地域におけるESD推進事業に関する指導（向陽高校、海南高校）。 海南市孟子のビオトープにおける観察会等での指導。 海南市歴史民俗資料館の運営審議会委員。
自己評価・課題・改善案	今後も当館の運営に支障のない範囲で、地域・学校および他館との連携に取り組む。

D. 県内博物館施設と連携した事業を行っているか。

平成29年度目標	連携した事業を行う
----------	-----------

実績	<p>県立図書館、和歌山市立博物館、田辺市立図書館等の施設の協力をあおぎ、特別展「興味津々！深海魚」を開催した。</p> <p>県立紀伊風土記の丘と連携した昆虫分野の観察会を実施した。</p> <p>県立紀伊風土記の丘が主催する「風土記まつり」に参加した。</p> <p>県立博物館施設等が連携して進めているスタンプラリーに参加した。</p> <p>県内博物館施設を中心とした和歌山県博物館施設災害対策連絡会議に幹事館として参加した。</p> <p>南方熊楠記念館と連携して、秋篠宮ご一家への展示解説、野外観察会等を行った。</p>
自己評価・課題・改善案	今後も当館の運営に支障のない範囲で、他館との連携に取り組む。

5. 広報・情報発信

自然博物館長による所見	<p>各種メディアに対する情報発信は例年通り活発に行われたと評価できる。ポスター、広報およびイベントチラシ等を通じた情報発信についても努力の様子がうかがえる。一方、電話や来館による問い合わせに関しては半減しているが、この理由は不明である。また、ホームページ、フェイスブック等の更新回数も減少しており、それに伴って閲覧数も減少が認められた。来館者アンケートの結果からは、館情報の入手先としてのインターネットはそれほど多くはないものの、これからの情報発信手段としてその重要性はますます高まることが予想される。更新回数とともにその内容に対して工夫が求められているといえる。</p>
評価部会所見	<p>地域情報誌、ラジオ、テレビへの協力、新聞各紙への寄稿の他、ウェブサイト、Facebook等を利用した多様な情報発信によく努めている。SNS時代では観覧者が気に入った場所や展示をスマートフォンで撮影し、それを自分のブログやInstagram等に投稿、それを見た人達が評価して、自分も来館するというパターンがあり、ここには「ハンズオン」＋「館の評価アンケート」＋「広報発信」の3つの要素が含まれている。館側としては、館内の撮影スポットの提示、更新も必要であろう。なお、電話やインターネットを通じた問い合わせに対応するため、他の博物館の分類学の専門家を含めたネットワークを立ち上げ、協力関係を構築するとよい。ウェブの閲覧数の減少が更新回数の減少によるものと分析されているが、コンテンツの質の問題もありそうなので検討されたい。もし更新作業に時間と労力がかかり、他の業務を圧迫するようなら、必ずしも更新回数を現状以上に増やす必要はない。チラシが来館者増加に貢献しているとの評価だが、アンケート結果ではそれほど多いように見えない。印刷費用・送料との兼ね合いだが、どのような配布が効果的なのか検討されたい。</p>

①県民への直接的情報提供

A. 問い合わせ(電話、来館等)に対し、ていねいに対応しているか

平成29年度目標	質問者の疑問に対して、その内容に沿ったていねいな対応を心がける
実績	年間約500件の問い合わせに対応した。
自己評価・課題・改善案	問い合わせに対して、ていねいでわかりやすい対応ができたと考えている。今後とも質問者の疑問に沿って、ていねいな対応に努める。

②メディアへの情報発信

A. メディアへの広報・情報活動は行っているか、掲載件数

平成29年度目標	資料提供30件、記者発表1回（前年度並み）
実績	資料提供26件、県民の友30件、記者発表1件、毎日新聞他連載を含む掲載248件、県教委制作ラジオ番組「定期便教育の窓」1件、県教委制作テレビ番組「はばたく紀の国」1件
自己評価・課題・改善案	今後も館運営に支障のない範囲で積極的な広報活動を行う。

③ホームページ等WEBによる広報

A. 更新回数

平成29年度目標	できる限り最新情報を提供するため、更新に努める（前年度68回）
実績	ホームページの更新回数は52回、閲覧回数約242, 219回を記録した。
自己評価・課題・改善案	更新回数は、前年度にわずかに及ばなかったが、広報担当及び学芸員が最新情報の提供に積極的にに関わり、今後もタイムリーな情報発信に努める。

B. ホームページ以外の情報提供、広報活動を行ったか。

平成29年度目標	フェイスブック（ツイッターを含む）、ブログで最新の情報提供を随時行う
実績	フェイスブック、ツイッターでの更新回数は79回、閲覧回数は約131, 899件であった。
自己評価・課題・改善案	今後もフェイスブック、ツイッターを利用して自然博物館の最新情報を発信していく。

④印刷物の制作

A. ポスター、チラシ等の情報提供、広報活動は行っているか

平成29年度目標	年間行事計画チラシ、特別展広報チラシ、冬季イベントチラシ、お話し会チラシ等を作成する
実績	年間行事計画チラシ6.5万枚、特別展広報チラシ14万枚、冬季イベントチラシ10万枚、お話し会チラシ5千枚を4回作成し、県内だけでなく大阪府、奈良県の小学校等にも配布した。
自己評価・課題・改善案	チラシ配布の効果は、アンケートからもはっきりと現れているので、今後も積極的な広報をすすめる。

6. 協力事業

自然博物館長による所見	実績にも述べられているように、環境省との協力事業のほか、生物多様性和歌山戦略関連事業、RDB改定に係る調査・資料収集、外来種リスト作成に係る県自然環境室との協力事業および博物館施設との協力事業等が活発に展開されていると評価できる。
評価部会所見	様々な関連組織団体・機関、外部機関との、協力・連携が行われ、和歌山県における自然史系博物館として十分な存在感を示している。しかし、その取り組み方が、学芸員の間で差がある点が気がかりである。また、博物館主導の企画を立て、他機関に応援を求めるような積極的な活動も行うとさらによい。

A. 博物館の向上に寄与するため、他の関連組織・団体の活動に協力したか

平成29年度目標	自然博物館として積極的に協力する
----------	------------------

実績	<ul style="list-style-type: none"> ・関西広域連合が主催する生物多様性検討委員会に出席した。 ・和歌山県高等学校総合文化祭・自然科学部門、SSH等の各種教育機関が主催する発表会において審査員を務めた。 ・紀伊半島野生生物研究会等の各種団体が主催する教室・講座・シンポジウム・サミット等に対し講師派遣を行った。 ・環境省近畿地方環境事務所・田辺自然保護官事務所と共にアフリカツメガエルの駆除活動を行った。 ・和歌山県水産試験場「河川及び海域での鰻来遊・生息調査事業」に協力した。 ・和歌山県自然環境室より依頼を受けて特定外来生物に係る専門家調査を実施した。 ・環境省第5次レッドリスト作成に関する主任調査説明会に主任調査員として出席した。 ・和歌山県外来種リスト作成及び和歌山県レッドデータブック改訂に係る各分野の専門家調査員会に出席、資料収集にあたった。 ・和歌山県立博物館の田辺市玉置氏旧蔵貝類標本調査に協力した。 ・和歌山市立博物館の駿河屋菓子木型絵図面にある貝類の同定に協力した。 ・山形県立博物館の特別展「森の妖精ー不思議な生き物、粘菌ー」の開催に協力し、記念講演（8月5日、山形県立博物館）の講師も務めた。 ・南方熊楠記念館および県庁広報課と連携して、秋篠宮ご一家への粘菌のご進講を行った（12月5日）。 ・南紀生物同好会、秋の研究発表会にて粘菌に関する記念講演（11月26日、ビッグU）を行った。 ・紀の国サイエンスラボが行う子供向けの科学実験教室に協力した。
自己評価・課題・改善案	館の運営に支障のない範囲で今後も積極的に協力していく。

B. 外部機関との連携・調査が行われたか

平成29年度目標	要請に応じ連携・調査を行う
実績	和歌山大学と共同で世界農業遺産みなべ・田辺地域における植生調査を行った（継続中）。
自己評価・課題・改善案	今後も、館運営に支障のない範囲で、積極的に調査を行う。

7. 人材育成

自然博物館長による所見	学芸員資格取得に係る博物館実習、インターンシップ制度による中・高校生の受け入れ等を通して、自然史系博物館活動の実際を習知してもらうとともに、人材育成に努めている。一方で、理系以外の博物館実習生を受け入れざるを得ない状況も生じてきており、こうした学生にも対応可能で有益な研修プログラムの策定と実施に努めていくことが必要である。
評価部会所見	博物館実習、教員研修などよく受け入れられており、人材育成に十分貢献している。将来、ボランティアや外部の研究協力者が活動しやすいように専用の部屋、機器、スペース確保が重要である。文学系学芸員志望者の博物館実習受け入れについては、学生を送り出している大学と協力してカリキュラム開発に取り組むのが良い。小中学校の教員の中には、生物の分類や生態に無頓着な教員が多過ぎるので、博物館はこの人たちの再教育の場としての機能を果たして頂きたい。

①博物館実習

A. 博物館実習、インターンシップ、教員研修等を受け入れているか

平成29年度目標	館の運営に支障がない限り積極的に受け入れる
----------	-----------------------

実績	学校教育現場からの要請に応じて、教員の社会研修を長期1名、短期2名、博物館実習5名、職場体験学習及びインターンシップは中・高校等13校26名を受け入れた。
自己評価・課題・改善案	引き続き可能な限り積極的に受け入れる。

8. 組織と運営

自然博物館長による 所見	館の置かれている立地から、津波等防災に係る危機事象対応マニュアルに従った対応及び訓練を、日頃から徹底することが肝要である。昨年は訓練実施日を指定せずに抜き打ち的な訓練が実施されたが、あらかじめ館内で取り決めていたマニュアルに沿って速やかな対応をとることができた。個人情報、データ管理等も県の方針に従って適切に処理されていると評価できる。教育庁主催の人権研修にも全員が参加したほか、館独自でもセクシュアルハラスメント、パワーハラスメントについての研修を実施した。
評価部会所見	定年退職者が出たことで、館運営上支障をきたすことがないように職員の業務配置をどのように図ったのかといった実績面の報告が望まれる。防災訓練を抜き打ちで実施した点はよい。アンケートによるニーズの把握については回答者に偏りがでないような工夫が望まれる。特に回答については、大人と子供に分けて集計し、大人の意見をより重視して対処すること。子供がわかりにくくても、大人が理解して、子供に教えれば良い。県外における学術的な講演会やシンポジウムにも、学芸員を積極的に参加させる等、学芸員のレベルアップのための学会参加、研修について積極的に進めるべきである。

①組織・人員

A. 危機管理・防災体制についてマニュアルを作成、実地訓練等を行っているか また、日常的な取組が行われているか

平成29年度目標	教育庁職員防災体制、自然博物館危機事象対応マニュアルに沿って、実地訓練等を行う
実績	県庁全職員を対象に災害を想定した参集訓練が行われた。
自己評価・課題・改善案	訓練実施日を指定せずに抜き打ち的に行われたが、決められた時間内に参集を終えることができた。

B. 個人情報の管理・データ管理が適切に行われているか

平成29年度目標	データの管理に留意し、データの漏えいについては細心の注意を払う
実績	データ管理に注意を払い、漏えいはなかった。
自己評価・課題・改善案	引き続きデータ管理には細心の注意を払い、流出事故等が発生することのないよう心掛ける。

C. 館内外の研修に対して、職員が参加できる体制がとられているか 職員は参加しているか

平成29年度目標	職員に可能な限り受講を奨励する
実績	教育庁関係全職員を対象とした人権研修を受講した。
自己評価・課題・改善案	館の運営に支障のない限り、研修参加を奨励する。

②県民の期待に応える運営

A. 利用者数：当該年度の利用者数は何人か

平成29年度目標	110,000人（前年度並み）
----------	-----------------

実績	入館者数119,170人、観察会等の参加者延べ1,211人。県民からの問い合わせ年間約500件。
自己評価・課題・改善案	展示と普及活動の充実に努めるとともに、広報に力を入れ利用者増を目指す。

B. 利用者の満足度、ニーズなどの調査を行っているか

平成29年度目標	アンケート調査を実施する
実績	周年アンケートを実施して、毎月ごとの集計結果を回覧した。1,732人からの回答があり、全体を通じて82%以上が「良い」との評価であった。不満・提案等で多かった意見として、「少ない」、「小さい子には難しい」、「狭い」などがあつた。
自己評価・課題・改善案	アンケートや来館者からの指摘、提案、意見をしっかりと受け止めてできることから改善を進める。

C. 調査結果を反映して運営を行ったか

平成29年度目標	アンケートをもとに可能な限り対応する
実績	すぐに改善できる項目については取り組み、展示解説パネルの充実、照明の改良による水槽展示の見やすさの改善等を行った。
自己評価・課題・改善案	アンケートの調査結果をもとに、予算も勘案しながら改善できるところから対応する。

③情報公開

A. 使命、目標、計画などの方針を公開しているか

平成29年度目標	ホームページ上で公開する
実績	使命、目標、計画については、H27年12月よりホームページ上で公開。
自己評価・課題・改善案	今後も、公開を継続する。

9. 施設・設備

自然博物館長による所見	すべてにわたって老朽化の著しい当館であるが、日常的な保守管理の徹底によって、特段大きな事故が起きていないことは評価できる。総論でも述べたように、予算の獲得に努めた結果、直流電源装置、濾過水槽配管、取水ポンプ室、海水槽冷暖房設備、排風機および水槽加熱冷却ユニットの修繕を実施することができた。
評価部会所見	緊急性の高い設備更新はよかつた。引き続き優先順位をつけて施設・設備の改修や更新に務めるべきである。ユニバーサルデザイン・バリアフリーについては具体的な改善項目を挙げ、実施の優先順位と予算的な実現可能性を検討し、計画的に進める必要がある。新館、新収蔵庫、駐車場拡大といった施設の抜本的な拡充も求められる。外国人の来館者向けに、外国語で吹き込んだ案内テープ等を用意する必要がある。

①施設設備の維持管理

A. 定期点検の有無、安全衛生の管理が行われているか

平成29年度目標	設備等の定期点検を実施するとともに、安全衛生についても日常的な管理に努める
----------	---------------------------------------

実績	各担当職員による日常的な整備を複数回行う等の強化を行った。施設設備において、特段大きな事故はなかった。
自己評価・課題・改善案	未然に事故を予防するため日常点検・整備等に重点を置いた管理を実施する。

B. 施設・設備の改修や新たな整備が行われたか

平成29年度目標	予算の範囲内で計画的に実施する
実績	直流電源装置取り替え工事、濾過水槽配管修繕、取水ポンプ室修繕、きらめく海水槽冷暖房設備修繕等に4,800万円をあてて修繕、整備をはかった。
自己評価・課題・改善案	引き続き老朽化した施設整備の修繕および維持管理を実施する。

C. 長期修繕計画を有しているか

平成29年度目標	平成26年度以降5年間の修繕計画の4年目の計画に沿って修繕する
実績	排風機と水槽加熱冷却ユニットの修繕等を実施した。
自己評価・課題・改善案	老朽化したポンプ等の更新、改修を実施する。

②快適性の向上

A. バリアフリー対策、ユニバーサルデザイン等の対応が取られているか

平成29年度目標	予算の範囲内で実施する
実績	外国人の来館者に対応するため、職員が外国語対応できることをアピールする関西おもてなしバッジの配布を申請し、バッジを着用することとした。
自己評価・課題・改善案	今後もバリアフリー対策、ユニバーサルデザイン等の対応を積極的に行っていく。

B. 利用者に対する適切な接遇が行われているか

接遇の向上が図られたか

平成29年度目標	寄せられた意見に基づいて、朝礼等において日常的に喚起する
実績	来館者からの質問、電話等による問い合わせには、相手の意をていねいに汲み取り適切に対応することができた。
自己評価・課題・改善案	引き続き利用者に対して、ていねいな接遇を行う。

10. 財源

自然博物館長による所見	県財政状況の厳しい中で、約4,000万円の工事請負費を獲得し、施設・設備の修繕が行われたことは、来館者の安全確保や、展示環境の維持を考えれば当然のこととは言いながら大きな成果である。一方で、資料収集や調査研究のための予算の増額はなかなか望みがたい状況の中で、外部資金や大学等研究機関との共同研究を求めてゆくことも一つの方途であろう。研究成果の公表が強く求められているところでもあり、研究設備・備品の貧弱な現状と、その必要性を理解していただく必要がある。
-------------	--

評価部会所見	緊急性の高い設備の更新予算の確保並びに科研費の応募資格を取得できる見込みとなったことはよい。今後も外部資金の獲得に努力されたい。学芸員の意欲を高める上でも研究設備・備品の更新、新規設置が望まれるが、例えば、走査型電子顕微鏡などについては積極的に県に要求して行く必要がある。
--------	--

①予算の確保

A 入館料収入・当初計画に対する実際の収入達成率

平成29年度目標	1,972万円（当初見込み）
実績	2,018万円で達成率は102%であった。
自己評価・課題・改善案	今後も目標が達成できるよう、展示の充実に努めるとともに広報の強化を進める。

B. その他の収入の確保について

平成29年度目標	図録・館だより販売26万円（当初見込み）
実績	H29年度販売実績は30万円であった。
自己評価・課題・改善案	魅力ある図録、館だよりの発行により、収入の確保に努める。

C. 外部助成金等を獲得しているか

平成29年度目標	可能な限り助成金獲得に努力する
実績	水産庁委託「河川及び海域での鰻来遊・生息調査事業」調査費1,000千円（県水産試験場と共同研究）。科研費に関しては内規の取りまとめを行った。（財）海の科学館からの助成金については落選した。
自己評価・課題・改善案	今後とも、各学芸員が自己の仕事を勘案しながら、外部助成金の獲得に努めて調査を行う。